



朝鮮語譯

卷一

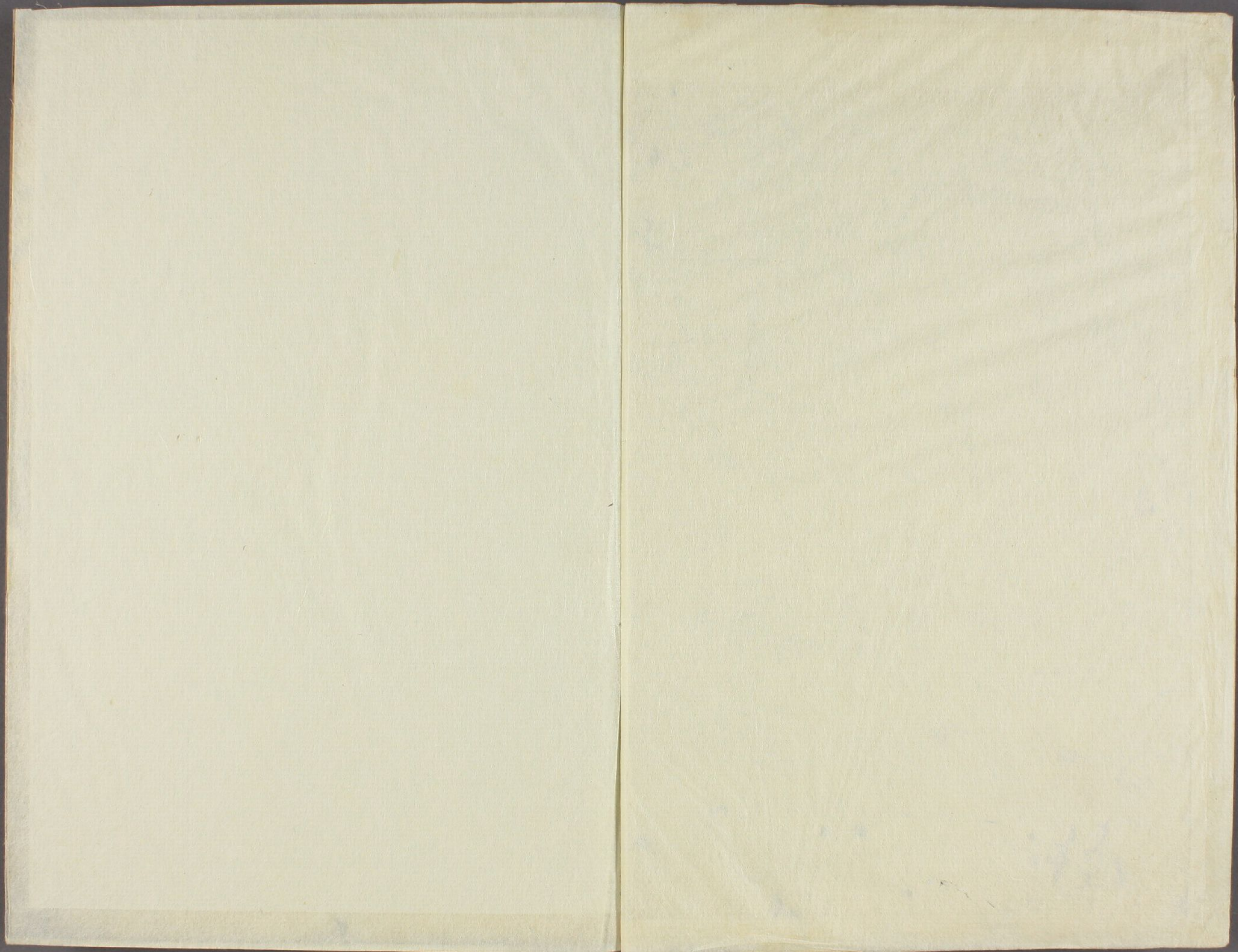
服部文庫

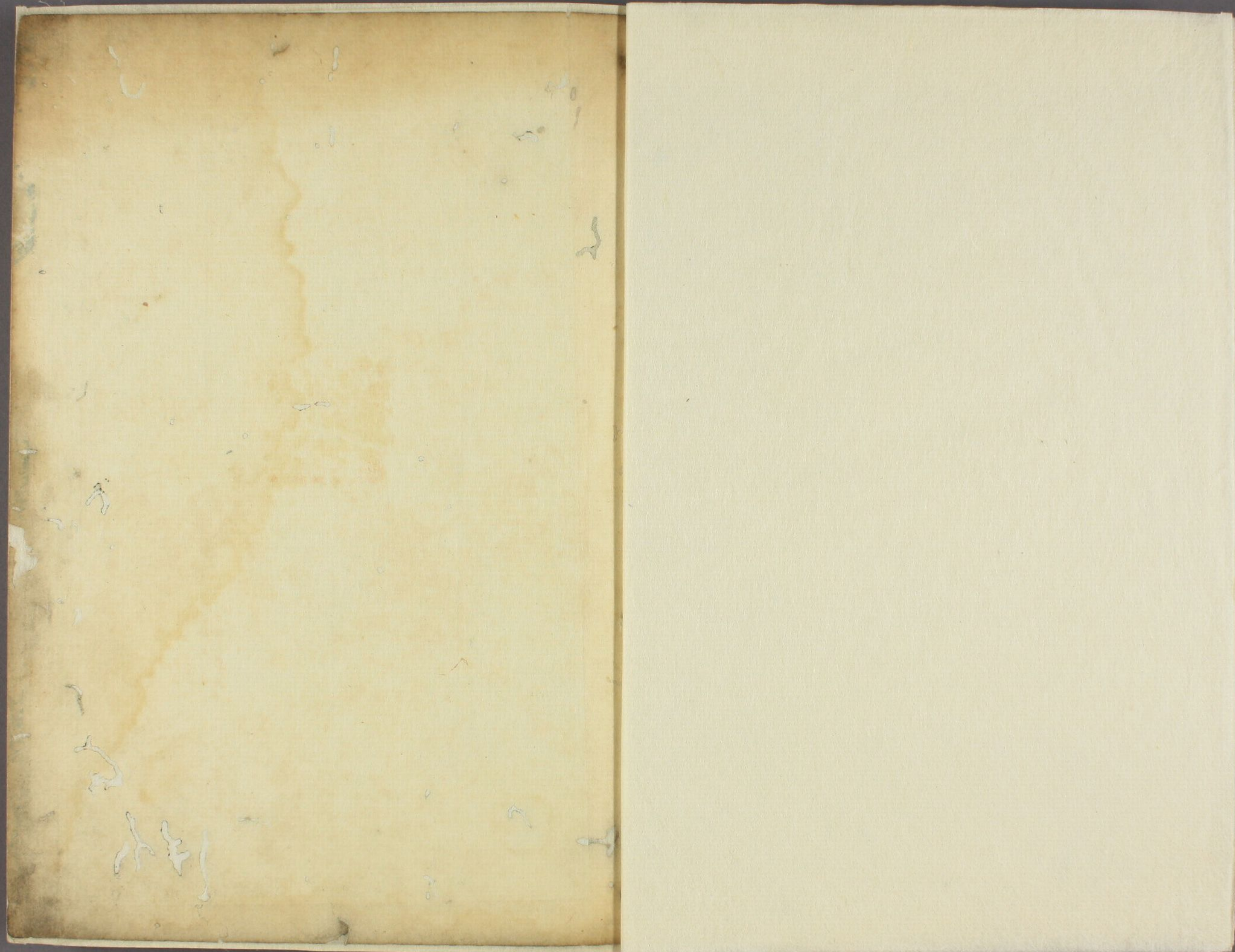
イ 17

2082

1







イブタイノンス。タイカ。キヨツソラマイ。日本ノニ應當
滋味イニシイリトイッソラレニワ朝鮮ノニ格別イク
キヨグハルコツトラ。コマヤグ館中ウイイニヤホ
キナイロ當ハマニルハレバツケツテイツルコラニイリ
ヲブツヲニバムコツトイメヨシ故郷生覺ハンモラニニ
ンソヲニカリマハトイバタイコルレツキマ任意口カキ
モツハラニコラシ不祥ハニイリヲブツヲイタ

唯今ハ時分ガヨクハ産ノ種ヨリ世ニ定
而白ひてガミズハ産ルルヨクハ朝鮮ハ

ラニハシ秋毫ト生覺テアソコ青春又ル空送ハ
ニイブタイトロク窮迫ヒキナイラブノイ
歳月ハ水ハ流ルヲ極ルニ年を去ルニ
後を去ルニ若クありかきハ程ハ少ク
之ハ事ト信ス信古及ニ至マ
之ハは後金ハ信ぬとトてハ已好
用ニ立向ス信ト試ガ長ク留留セシテ
只今と難多クヤ事ナシ信
天下サラニ信義カウツトニコル當身ノ信義ヨル

生覺チアニハシコ利ニ生覺ハシニラ、イコラハラキ大丈
夫一番言約ハシ後ライコ、キアニハコヌルハムルメヨ重ハ
ニナキロル施行チアニハシニカガクニツタグチアニハライタ
天下ノ人モ信義ガ第一ト信スるとモ云
信義ヲおもふ道ハ利欲計と思フ
あぢふたはたよハ信ハク男ハ一度云
かこむらか後志遠者たぬ管々ハ信
と信テヤ年キかけト一ト拂
さぬハキツル者らぬ事トハ信

コイシヤノン日本判事ロオットテミヤ将来萬里カミニ
兩國誠信スルカキロクツトヒハヤトムラフカイハラブ
ル千萬ミツツガコイツスブノイノワリノシヲルイリホヤラ
フライタレホヨブキル定キ馬ツハラニトラク薪タハライカ
ミエノハ日本判事ノ年モ若クモ高國誠
信ノ事モ幾末久安ク安重ノも隙際
ミナシ根ハ取扱ハ取ルハ取ル
頼ノ内ニ取扱ハ取ルハ取ル
ト又取ルハ取ルハ取ルハ取ル

けくかきり多存ます

イビシヤノイ萬事ル無事ヒモツガシ海外無恙ハラ
シヤ即時本吐イトララブレニツブコニウリトアロブ
ダブソワハラブノイタ朝鮮ノト参判使カ連ハマワレ
トイ誠信ニラハラブヤ始終平安ニ對接ハラブレニラ
イルニルソムラブレ前後ヲイラブレニ慶事ヨラガハラブノイタ
此度モハハ表ハ取ルハ取ルハ取ルハ取ルハ取ルハ取ル
其ハ海陸を為子連中固ハ取ルハ取ルハ取ルハ取ルハ取ル
取ルハ取ルハ取ルハ取ルハ取ルハ取ルハ取ルハ取ルハ取ル

忽とも冬判使ヲ曉トシ此冬後ますトシ凡誠信
此冬トシ始終結トシ指トシ此冬トシ去トシ成トシマトシヤ
由トシまトシ也トシおトシ極トシ此冬トシ終トシぬトシ不トシ後トシにトシ無トシくトシ交トシ事トシを
なトシ中トシをトシなトシ

十ノシヅムルアニゾルタイタラシラムシタアトズワガニホムガスカイヤ
ハムトロク安坐ニヤ萬事凡生覺ハニ心懐サヲ十ワ因
ハマハルサイヲルサキゾニテムニサラム用トシ慮トシロルクリ
ホコ病イアニナラゲノコカ

私トシにトシ私トシ乃トシ寝トシりトシ也トシまトシ也トシ及トシ時トシ分トシにトシ余トシをトシ皆トシ寝

へらトシまトシしトシくトシ枕トシ眠トシとトシさトシまトシしトシてトシ起トシくトシ茶
事トシをトシ思トシ案トシしトシまトシしトシふトシおトシよトシくトシふトシりトシが
あトシぬトシくトシそれトシをトシまトシくトシ夜トシとトシ明トシくトシまトシすトシふ
まトシがトシ折トシこトシてトシ子トシ若トシかトシりトシくトシ思トシフトシ考トシよトシる
るトシがトシけトシれトシわトシがトシらトシくトシ病トシのトシ生トシしトシまトシすトシる
まトシいトシくトシなトシまトシすトシ

少年ノイ白トシ髮トシ老人トシスルトシウトシチトシニトシヲトシフトシコトシダトシホトシントシドトシロトシヲトシン
ハルトシアトシヲトシイトシヤトシバトシトトシイトシホトシムトシサトシニトシマトシクトシテトシモトシシトシリトシイトシウトシカトシナトシトトシ少年
同トシ樂トシハトシマトシニトシチトシヲトシフトシイトシロトシントシドトシワトシハトシヲトシフトシユトシニトシワトシイトシリトシ白トシ髮トシウトシイトシトトシニトシ

シヨクニリイワララツカ

おふよよ白髪も老んぶ笑ゆるかおるる
天のち居る誰がいつとあかひはつあ。私
が手と回遊ーまーこの事がまのめはこ
けなるとははね。おぬきぬきとまをうま
ふい事くこの産らぬ。

ナニ兩國幹事此ハラマイナイヒムソトエルマグイラン
モムルバリマヒブソハラニマノニイコロキヲリヨラニイリヲニイウ
リカツタニ未鍊ハンサラムンハルキリヲブソツイタ

私名兩國の同。公用ヲ務ますまは私名と以
まやうあうばると棄てぬ大御まやう
くまうまは極も玉もこの浦に私名
ふ功者もぬねがはれぬ

フジイン日^ヒ氣^キ晴^ハ明^シク^シフキロ草^{クサ}梁^{リヤウ}外^{ガイ}カラ^カフ^フタ^タニ^ニ對^{タイ}馬^バ
島^{シマ}モイ^イカツ^ツカ^カライ^{ライ}ホ^ホヨ^ヨマイ^{マイ}實^{シツ}口^コ故^コ郷^{キョウ}ク^クリ^リフ^フソ^ソワ^ワヌ^ヌム
ルナキ^キロ^ロル^ルカ^カイ^イト^トツ^ツラ^ラモ^モツ^ツハ^ハマ^マツ^ツブ^ブノ^ノイ

昨日の天氣がよあはれつとねくあへま
しなれを對馬山が迎くく人へ向して

誠は故郷を去つての心残りも海に出
と帰る程までしての心残り

サラミサヲナヲシ行實ルハヲヨシムホキルノヒボコサク
ハニイルハヲヨシノムホキルツヒ^ホニイトウサクチ
ユグイヲミマチヨツツルコニエ^セイ聖人ニロシトイアツ
ゾムイヲチニイルトツコムイツカトカタハシニサラムモ
ヲムルトシクハマヲチシ行實ルハルコシマウトイハキ
ヲリヨヲニサラムガイゾ不足^キハシガアヲフゾイ
人無きも^イ初ヲすま^イバ人よ^イアツク^イス^イ

善なる心とをなす人おそくとも見
らるる程おはす振る内には何事かよふ
心残りあり昔の心より^イ宣^イ一^イと^イ朝^イよ^イる^イヲ
やうやくタ^イ死^イと^イとも^イ可^イあり^イと^イは^イ行^イく
ま^イバ^イ人^イと^イ志^イと^イ望^イ國^イに^イら^イ噴^イな^イる^イ行^イと
す^イは^イ心^イを^イと^イ度^イね^イた^イ波^イし^イる^イま^イせ^イぬ^イ
人^イと^イ方^イ知^イる^イ不^イ足^イの^イ心^イを^イな^イら^イぬ
サラミ所見ヌイ将来イルアルメヨシムスニイルロモヲ
ムクイロサルモハハルコニシ時節サラミナノム

イナタ所見ウイ醫髯ハヤクハグ一時月前イ急
ニホコ遠慮^ウ見生覺^キアニアニ毎^イ事ウイ見敗^ハ
ノニイリニンスグ^イ

んくろ^イ答る^ク初^メ末^ノ事^ガ去^ル事^ハも
あ^らず^し何^レも^もつ^て信^じお^つ能^くお^ぬと^もう^へ
は^なふ^まひ^らも^も古^く時^しく^んを^我十^人
見^振ら^ひも^もつ^て不^新一^時目^あ
急^か事^計して^遠き^こも^つて^一
せぬ^れ事^事又^振ら^ひも^もつ^てあ^らず^し

草梁イカラノヨアムレ大事ロナカシマトブツザブコホ
ツガイマバイハラニ偶然^ニ問^忙イニエケシト館中ヲシ
ニナルトスイキモツハシカイタラカメヨカヨツチハラニ
イルベン切^込迫^ジウニコラノシハラレニハ偶然^ニ廉^恥ヲフシ
ニエケゾフシリツツイツカ

板^ノ下^ノ急^急南^ノ何^レ大事^ノも^も
ま^して^し神^ノも^もつ^て古^く時^しく^んを^我十^人
す^る館^ノ日^ニ法^体是^レなり^ませぬ

法トツツヲリ

私家えく冬り格宿かへて逗留致まして
各と伴ひ程の物語りて一冊と書居り
習ひまて洋紙のとりかへてまゝ
出付せりまふは苦小成りてな
殊多ク存まふ道に何れも進まふ
物と申すはくは云々計
殊一重なりておとく流しな
きくえ私ラおひ出さる事と申す

ヲノルニ從容ヒルソムハレリ主人トキツカハラブノイタ
ナルトデモラツソラトイイリモタニルソムハレキトスイブキ
アニハラブコヲノルナルト贈和ニ從容シトルコカラフ
レユシマソロモラムルハルイリヨラヨシ對馬島ウリキ
ブイ請ハマイリニルハライメヨシ各別イ待接ト
ハラレニシ容裡ヨラニイツツハライタ

今日も寝て居り物言ふが事なまよとよ
こどもぬなまよとよ日と昔ありて
おとくはねおとく合て物言及まよとよ

本難い事々此座は前々りの事余も
此座は此座とるべき事成りませぬ
この事ありませぬと云ふに因許し私宅
申詰まりては振に物置成りませぬ
各々の此座をいぬ振に此座ありませぬ
振に此座をいぬ振に此座ありませぬ

都中クワ代官クワモイモイラトソコ議論ハマ
都中クワ代官クワモイモイラトソコ議論ハマ
都中クワ代官クワモイモイラトソコ議論ハマ
救ハラゴ代官ノイ問忙ハシイリイッソライメヨシ

都中イシラ救ハルスイイシラアニララランガニノニイタ
イトロクアモイルラト疑心ハラブニマノシトトラライモル
キラリヨブソラニ對馬島ウイ寄別交代ハラ
ルコシニ新代官ドリナライメヨシイハリ決断ニイシ
ルカハラブノイ

商人中ニ代官とを何事でもいふに
まゝに商人中ニ難儀に此座を代官より
救に代官に難儀な事々の此座を商人中
救の事々をいぬ振に此座ありませぬ

事と以疑ひめさし向くは形と久く逗留
難後、西彦は程、對馬中津浦にて交代はま
り、程、形、代、官、の、返、後、浦、に、ま、ら、う、を、け
事、の、お、海、ま、ま、ら、う、の、く、の、形、と、よ

疾足者先得之ヲホコムハニイルハイサキニルヨ唐
突ハニ體ホコホムクムグイトキニルヨ富貴ニ在天ニ
ラホコモラムルコイラルニルヨベスルニノブコト、シノツラハ
ニ貧賤ハニサラムルヲグニユイニユケキニルヨ怨讎ニライ
ナムタリエニシナンタハニサラムミタタアハニバンスニイニニヒロク

貧賤ハニサラムケイトハニバンスニヒルイリイソムノイ

疾足者先得之ヲ得て中まて人々を
害をばりしあんぞくして虎を居るふふ入
らず富貴ハ妖小在るよやめをれごうわと
不怠位を言やうくわあひきししとや
ますふ程貧賤を人々のいぐし後、せむ
して敵をばり捕しよふお合とやますふ
右人毎小一度死す西彦は程不暇令賢
賢も人毎小一度ハおむるがあはるよ

くもる

トロニ鬱陵島一款^ルノ別差使^{カニ}トナラシラセ^ル

仔細トシモツキテ^テ萬一虚言ニアライ^ニヨシ^ク

ロソラルブニア^ニラトロヒマ^ニ彼地ライ^ニ害^ヲロブ^キ甚^クホコ

朝廷ロシマタシ^ニ挽改^カスル^ニバイ^ニラソ^クニイ^ラニ^シ事

情ル生^ニ覚^スハラブ^ニマア^モテ^ロ十^ニ彌縫^ガハイ^ニマ^ニジ^ヨ

グイドヨツブ^ニミ^ヨブ^カイ^ハラ^ブソ

取^キテ^モハ^シ鬱陵島^ノ一^件ノ^事法^使志^トミ

此^ノ者^ハ後^ニま^シル^ニハ^シ未^ダ信^ズナ^リの^事也^ト也

萬一^ノ虚^言ニ^シテ^モハ^シテ^モ法^使志^トミ

計^ルニ^シテ^モハ^シテ^モ法^使志^トミ

ハ^シテ^モハ^シテ^モ法^使志^トミ

ハ^シテ^モハ^シテ^モ法^使志^トミ

ハ^シテ^モハ^シテ^モ法^使志^トミ

ヲ^ルニ^シテ^モハ^シテ^モ法^使志^トミ

シ^ムノ^ハハ^シテ^モハ^シテ^モ法^使志^トミ

ド^ルケ^シニ^シテ^モハ^シテ^モ法^使志^トミ

スルトハンブプロハラブエカルライアムトハラニ消日兼ハマ
ツソヲマイアニモヲムイヲ、イニエケシル正安心ナ
モツハラニウリル、ホムルハシリツカラノルン終日トロク
トト、ラカサイ

今日の風も静小天氣トよおのたゆみ初
余り流物おのたゆみ館小多りまーたさば
折その路中、最ふ必の生路ふるところ
を以て速ふの安おのたゆみ物流すを至
るおぬおとけし及及びの言すーまーし

は内んふめめ思ふませし、あふふませぬお私
の老々、ふままを、今日の流物だの、おぬお私
ナト朝鮮子エラバンワツクヲトイムクワカツナ 之ヲ然
ヒナナイキエアモランツル、モロコナルニナイルタラニ
ヤウブコヲトンデイキルカノニカツソフタニヲノルニルシ
ノニニルスムルトツゾヲニサトニサムスカインドツハラブコク
ムルハイチコ 白 日、ホントツをけハンガブコスイホンチカ
コライヲブスフコニワナシ 本人 事 イ 駕 鈍 ハ ヤ カ ロ
ナシノンデイタトツチモツハラルカハマトロヒヤ 問 北 ハ ヲ ブ

コニワクロナハレチアニハシユ凡事ロルカロツナラフニ
メヨシウリ案恩惠カブチマシニルスムン忘^シ發^ス上ニワ
徳^ト芬^シマ白骨^ニ難^シ忘^スイロソコイタ

私^ニ朝^ノ解^ニ折^ル糸^ヲありま^シれ^ル人^ノ並^ニウク
や^シ昔^ノ南^ノと^ク以^テ解^ル法^ヲと^ル中^ノを^シ口^ノと^ク一
ま^シと^ク乃^シ乃^シと^クあ^リる^ニお^シ道^ヲと^ルま^シ乃^シ折^ルふ
以^テ解^ルま^シす^ルま^シ乃^シ乃^シと^クあ^リる^ニお^シ道^ヲと^ルま^シ乃^シ折^ルふ
眠^トは^シま^シ一^ニを^シと^クあ^リる^ニお^シ道^ヲと^ルま^シ乃^シ折^ルふ
ま^シ乃^シ乃^シと^クあ^リる^ニお^シ道^ヲと^ルま^シ乃^シ折^ルふ

在^ル私^ノと^ク人^ノ子^ノふ^ルと^ク以^テ解^ル南^ノと^ク法^ヲ教^ス訓^ス
場^ノ子^ノ玉^ノり^るま^シま^シい^く却^シ難^シ及^スな^シ乃^シ乃^シと^クあ^リる^ニお^シ道^ヲと^ルま^シ乃^シ折^ルふ
す^ルあ^リま^シい^く法^ヲと^クあ^リる^ニお^シ道^ヲと^ルま^シ乃^シ折^ルふ
と^ク報^スま^シと^クあ^リる^ニお^シ道^ヲと^ルま^シ乃^シ折^ルふ
あ^リる^ニお^シ道^ヲと^ルま^シ乃^シ折^ルふ
以^テ前^ノ又^シイ^クソ^ノビ^ロク^ホヨ^ラン^サク^ラフ^ソラ^ナイ^リソ^ノ
ロ^ホヨ^ブコ^親ニ^クロ^シニ^以前^ノ又^シイ^クホ^イラ^ナタ^クロ^チア
ニ^ハラ^フコ^ハム^ルメ^ヨ奇^ハン^ゴス^ルニ^シヒ^ツラ^フシ^ニト^ロ
ヒ^ア感^激ハ^ラフ^ワ人^事ハ^ラム^ノシ^ニル^スミ^ヲブ^ソワ

ノイダクツキヲリヨブコニワナイカキヨランゴシロク
薄畧ハラナウリナラハイシマ奇ヒニ立ケヲブ
ノシゴシヨラニイトダフシエ情イナアラブシムルキ
萬バラヲブノイダ。

以てお分送に假令はるまをぬと申すことナク
一よに掛の目ありて親の法に付すまをぬと申す
はのまの向ふふ知れぬものなりて申すてや
此ニキ果と優救ふに掛法をすまをぬと申す
法はしりらぬものなりぬいふものなりぬ

はたはた新に持糸ひきまらぬハキ
かかあがしと我まづく重寶法をす物
法をとうとすまはるは法也た法説ふ
ら下すすは法とあふれぬヤキ

ウリノニ朝鮮サラミラト日本高賈ノロスルハニ有
同日日本サラミラヲソチ日本イルトントキハラリツカ
代官ナイトイバンゾラムルワケシニアモイルラトト
トキニルシコ極盡ヒソコ議論ハマチヨフルダイロハ
メヨウリケイクルンイリイソコトシコイシマニロシ

クワイクルンイリイワコトンウリニラチヨツトロクク
千ナイメヨシ彼此ヲイ利ハルイリイニルブニアニラ誠
信ニシトルアニトヲククトツトヲブエノニツカ

私を解人として日知し高貴の及ますことハ
日本人小者も事として知りまを秘を何と
りかこ事とおるるに及まざるも世代官
中では度初らぬ後よりおるるも
事と歎しく迷ふお後ふかす極み
一くけはく、悪き後りおるるも
バセえとら

信や其之をわす、つがひたらずは
あつす、一をまるといふ方、利を
まとび、誠信とて、まゝとて、
は、たりのせぬ。

ヨソイノシクツツヲシドツソロボヨブチモツハヲニツツ
ヲシツイイヲブツヲメヨナシ連ハマクニルイ多事ハ
ヲワハンガクトクリカツゾロホヨブチモツハヲニイ恨
歎ハヲブコニワ兄ウシ一身閑暇ハマ草堂イ琴
書クワ月下酒肴口歳月ハ、ホナイメヨハバント

ボトル尋訪千アニタリヲイクリモイマハニツカ真
實ロクロルチマクシカヨシ朋友之情イ疎ルカ念慮
ハノイダラノル夕食後ライトミイシルユニ閑暇ハシ
門下ウイカツゾ口ホリダ

はは名打絶まを極送不西月掛りまをひく
三志ますをゆふるすぬ不私をむを
上用二いその終一あひたりのまをよ二一度系り
ましく四回不掛ますは返一かませいびぐ恨
歎きすをよ一たをえ二い歩を一人静に草巻

琴書と月ち酒者と一歳月と送られ
ましく一度私をふるす一をゆふるすぬか
たのぞふた指に疎トこをよますふるすの實
た指に四倍りますよ二朋友に情をうとうか
まをゆふるをゆふるをゆふるをゆふる今日夕
飯をよはは情をゆふるをゆふるをゆふるを
糸ましく一四回不掛ますは返一かませいびぐ恨

十ノ一常時ハノシイ^{ウツク}泪没ハマニ丑ロミナホミナツイ
フタイロモルヲ千ナイヲブタニヲゾイタニニ丑カレテイ

イツツワミク夕陽タイ山中ル千十イカラブタニラン
ガンサイドリ千千ヨリヨトイ其中イコイツユルソル
トハンズンハニ果然春節リンヅルアラブユクゲケツ
テイランカツ草木イジンナユコツタハラニ常時奔
走ハンモツルハムタイニガツスムノイ

新を常に詠用ニお給まりと夏と春とを
不存して苦まりと不眠り多りまふゆゑが
此法つく折節夕陽の山分山中と通りま
しつとハ法をり轉りましつと年中に骨を

勢よりき度流しましつと誠子春をそむといふ
となまり其外に熱るし暑ありとあまのせ
白いましつと老に事ありとと流しつと
ましつと此法

テブタイテキカムルニイサラムニ夕前頭農事ロル
キ念慮ハタニイヅイノン浴足ハニヒロク喜雨十
支難ハニイハンエルホロムカツタカシラ、イメヨンサ
ラムイ十農事ツイ十夕アキツブウルコシエニ
ノニハルハシノニイリラウリ千ヨコニ蠢々無知

ハンゴスルロシマ天意ロルモロユイラニテラニハキカクツ
キズツゾランイリニムスシガブニルハルココラハユニ
ワヨイイビロハマヲライ阻隔ハヤツタカイラニツ
ンキルホイブロワシマバイハリマハシニハンニリナトツ
コチヤハノンニルニルコチヤハヲトイロ辨ニテカコラ
ハラシガホルセ常時工行用ハソニル問答間ヌイナ
ムンゴツヲブシメアラシニ各別イハルニリヲブエ
ニワ大概ハノラハシニ題ヲブスニクルキツキヤツタマ
前後首尾カクツトナ切實ナアニハコニワ斟酌ナマ

或スルニリナイニルカカキヨカニマボラブツ

先此志が早ぶりなつて故也之由農作
氣をまゝに唯今を阿ま強く是りやた
有似合を喜あぶる昔路がぬます所故に十
四五百十歌まゝて又降まをくらむる為に
農作をわすれしよあはせまを道くはなすを又
あはせりや計し物を知らぬる分柄天の心
知れぬ程も何角云う是る玉極輝多むひ
程も何れ何角といひまをうの併はるる故

久し陽りまゝに廿拾道十悪キ交々然とわ
るめまゝに物古あまやとてなまな
一書めたぬりてひち中後と中皮のほし
云詞が足りまじびくたれにほろか最子
直用し詞名同答し問ふ所も交々をな
すしと程各別ちまな事しほす所
大塚中とのたきし歌をなひ詩と作ら
たりまゝとて茶後始末がまゝかあま
秘大以料言ふまゝとて茶用もまゝとて

らゝのれゆくアさしやまをい

ヲンガン館中ウイ常々ウイ朝鮮ニカガザル
ハノンサラミセンに恒留ハラミイモルリ往來ニアハ
ト平生イ行用ハノンニルスムンバイハリマハマトラ
リヨブニアニハトンドイイゾイノンハムルメヨ口辨ニ
蘊張カツコ棟梁之材イノンサラミイリナウシニイ
リモルコストハンツンキルホイフロウシマバイハリマハシニ
ニロモンニヨラブコニワ各別イサイロライトツキモツ
ハトンバンガヲンニリハナトラブソヲニ必然尋常イ

ニエケシレニワクロナムンシル、アニ對答千モツハマ
イリニロニカキヨカラマテムシサラムドリホエコヲソ
惣領館内、老、朝鮮詞とよふ人、人々んと
逗留致し、居、子、所、所、遣、は、生、本、海、人、
中、く、と、平、生、通、用、上、詞、を、習、わ、た、な、ま、す、し、
本、ま、と、ぬ、り、あ、ぶ、の、な、ぬ、唯、今、う、の、れ、又、辨、に、
舊、張、ひ、し、く、棟、梁、之、才、と、を、人、が、あ、ま、く、
所、の、程、に、世、極、を、と、又、な、し、所、の、も、不、然、と、
所、つ、く、習、わ、し、の、程、に、中、に、没、ま、れ、大、格、
別、

新しく承て事となし、極、愛、に、詞、を、ひ、し、
の、所、ら、ぬ、程、に、必、也、也、極、に、是、も、長、ま、と、ふ、
併、尋、に、し、や、る、事、と、返、答、之、致、し、
ま、ま、い、し、く、中、中、と、る、故、に、此、所、に、ま、ま、い、
あ、ま、い、し、く、極、に、
ウリヲルナヲニイリタラニイリアニルヲヨソイ一切
フサ、トリヨツキアニハヲニヲ、イハニイリヨランゴ
凶年ニラト任官ニガルヒムソシメヨンスルコシノグ
グハンデイ今年ノシ豊年ニヨランデイアニト

リヨツシノシゴシアムレハマトサナイナイヒムツキアニン
タノロアラブノイタハルメヨソイノシ高事ウイブ
トリツキアニハヲニブテイ館中サラムルクル
モイツカイハシニヲ、イクリハシヨラムノシゴ

私之今日参り申すは別々もきこひ我々
此方すもつれ入さしやぬぬめり我々
生流の山年ぶく當は之働く口の我々
まの月を餅汁よの我々も當年ハ豊子
ぶくの我々も入るは下もぬいどあ波テ

若く不働となすはふましくを南高
米を入るるもぬぬ必館内者も
及ぬぬさしやぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
アハイガクン歲月イ無窮トテイニトツハラブタニ十
ヒミンヒトイカン後ライノシ歲月イ能ラゴツハラワ
ナイカヨケイワンチヲツクゾイニトツハラブタニホルセサ
イハヤカワツスムノンテイアモイルトモラムダイロ成事
トモツハコ興況イ秋毫トラブソラニイラニサハハイエ
父母妻子親戚故友ドルモイシコ徳談イナハラレテイ

千里他國イナワツソワイランキンバムイヅムハニヅムルモ
ワサユ故郷ウル生覺ハニ宗口可憐コイラン問托
ハンイリヲブヲライダ

少年の時分を感月々窮しなふなましく
年長くまゝこほし感月があらはれし
私に名を返ししころあつたは
ざりまゝなるふあま新年を
心まじき事と年一はまをい
つたるまをいんやねな新年
も母妻子親

戚故友ヲ伴く返りし年分
他郷に居るまゝとて
まをいんやねな新年
ヨソイ連ハマナリ温和ホコ
ハイハヨ往來ハヲブキ口
節ナリラミトルイリヲブ
大作ハコ卒然ヒキブヲラ
キノシグワンゲツトニア
ルモンモクコ一定凍死ハ
リシソヲルコシニアムレ
サラムシ

尋常イニエキマト天道ランゴスニ四時ウイイニマ至
公ハニニサラムイ議論キモツハルイリラフトツイ

此乃名蹟る所そくよ天氣もよあまらく折こ
折れく詞を統古いしは来しよりあまらく
まをどおみくく冬之日ぐり折れを折れなり
まをいびくお前々大風もが波忽をあ成り
折れは来よは折れは心は折れは衣の厚
あまらく食を折れはあまらく人杯が凍れくあまらく
あまらく人志を折れはあまらく天を折れは

中とふり代ハ四時信がまらく公るも折れく

座は福人し議論はあまらく公事く折れ
フルフニ節イイルニ七月念前ノイ日氣イリソニク
ハ穀食時方振穂ハルタイソイソニバラミイリブウニ
必然キヨツキアニハルコシヨ客裡イラニサラムト思郷
之心イナル只トウハニ日本サラムトハルメヨ他國イ越
海ニワシマテキコイロライイニテイコヲルバラミイ
リ蕭々ハニ望御之情イマヲテイメロヲルコクハツ
ケツテイニエイクルイニラニトイ老親之下ウイイニシ

サラニカヨシコラルタルクワコラルバラムニシナカヨシ思親
之心イナルロバイハンダハマシニ人情マ天下同然ハルコ
ニ以^レ以^レ之心ル度他人之心ラハニチブルストナサラムニガ
チンガアラムノイ

昔年ハヨシクアハルマシク七月ハヨシク前ニ涼フ
コトハ教物が只今モ値ハルマシクアハルマシク分
烈^一ハ風ク吹クマシク定^一ハヨシクアハルマシク
トク^一松^一吾人^一ノ故郷^一ト思フ心^一ガヨシクアハルマシク
マシクヨシクヨシク人物^一ノ内^一ノヨシクアハルマシク

他^一ノヨシクヨシク退^一居^一ノ居^一ル^一秋^一ノ風^一ク
根^一ノ葉^一ノヨシクヨシク存^一郷^一ト思フ心^一ガヨシクアハルマシク
マシクヨシクヨシク古^一キ書物^一ノヨシクヨシクアハルマシク
親^一ノ心^一ノヨシクヨシク秋^一ノ月^一ノ秋^一ノ風^一ノ色^一
マシクヨシク親^一トヨシクヨシク心^一ノヨシクヨシクアハルマシク
亦^一親^一ノ人情^一ハ天下^一同^一オキ事^一ノヨシクヨシクアハルマシク
心^一ノヨシクヨシク心^一ノヨシクヨシク心^一ノヨシクヨシクアハルマシク
ト親^一マシクヨシク心^一ノヨシクヨシク心^一ノヨシクヨシクアハルマシク

即今ウイトロニ館中サラニカヨシコラルマシクヨシクアハルマシク

極ハマナナイニタハニトロイコラニ不祥ホコ残忍ハニイカ
 ソワハノイ各各ナラ法イタロコニワ父母喪ウイ三年侍墓
 ハマ居憂ハノニトイウコイテロ短喪ハノニトイニニ三年マ
 ル侍墓ハマト岡極ハシモヲミヲヒリマイシニナライ法ユニ
 短喪ハノニトイウコイテロ岡極ハキマサクハラルコ男児出入
 期約ヲグソ千里他國ウイワシヤ聞訃ハマシニロクナ
 ライ法コラハナ父母ウイ向ハマ岡極ハシモヲムニアモドイ
 タアハシカチロコニ情裡足生覺ハニ一家同生タル
 各處トコシマクリトシイルト不祥ハニテイイラニ岡極ハシ

ル、外方又各各地ライヲシマトルニイク情裡慘酷ハシ形状ニタアニルナ
 モツハラルソイ

唯ト承オナルニ館内ノ人が親之凶左右とやうく
 限ナクもなかりかましましるげぬ承りまうと世に
 る笑心かむむひの事ハいなりませぬあ之は式と
 其の存ました父母し善ニ三年奉養侍よむと憂
 小居人ナハゆり世に短喪と誓人ナハいなり三
 年奉養侍よ居くハ限りなむハをねむる
 祀、あしは式とハいられ短喪と誓人ハ

此限をひたしとあはらふ男兒は出立つと
云ふ振りも母の者ぞお累に他はに事なく憂に
たふとすましく候をむは法式がまうでいさ
ました父母に對しと歎きまするんは何ぞし回れど
うするんは中になまするし回家し足身を別ふ
おまひましくあうしおなはし字毒にばなり
ヶ振りおたふと他はとあひましくそ心中に
くるしお振子のやあましくおまをぬ

カラ身體ル、父母ウイツツワ養育ハマナシニ恩

惠ル、百年ヌルサラト多アカツブキヲリヨブソシニブテロブ
シノムクワ詰乱マ先世エ辱ルモケチニルメヨニモルハヤ
ハレチニルコ朝夕イ父母ル、モシコトヲイメヨチウムルムツコ
衣服ルタイミツゾワマテレコ飲食イトルメヨスインゴスルコ
ツボワタイブタイ孝養ハシゴシ子息道理エツツタクハ
ヲナ衣食イ泪没マ千里他國イ十ツソワトロヒマ父
母ヲイ念慮ル、キツチカイハニイラン不孝ヲテイカソツカ
人々身體と父母に後ましく暮るる不孝の
以恩ハ百年生くも皆報し書し詔しワグル

禮に不用の事、人といひ事と爲し、是禮の恥辱
 不與子と不復し、相々父母、事よく爲る事、
 之を言ふに、衣冠と何れもなく、飲食、其の破
 こと試み、時、存者、海、す、り、り、子、
 之の、及、理、ふ、此、事、も、一、衣、食、の、事、
 此、終、く、お、里、に、他、郷、に、榮、り、却、る、父、母、の、事、
 掛、り、く、此、振、る、不、孝、な、事、が、始、り、な、り、あ、り、
 ナイ、ヒ、ロ、ク、ナ、フ、ニ、シ、チ、ア、ニ、ハ、ラ、ナ、サ、ラ、ル、ニ、ヒ、チ、ナ、イ、マ、ボ、シ、ニ
 儀、形、眉、目、分、明、ハ、ラ、シ、ク、測、行、身、處、事、の、言、語、心、志、

バ、ン、ド、シ、ラ、チ、ラ、ブ、コ、ヌ、ル、ク、リ、ア、カ、ツ、ス、ブ、タ、ニ、ラ、ル、ル、ル、
 ハ、ン、ラ、ル、ク、ル、ク、ワ、ラ、チ、ニ、ル、ソ、ル、ト、ツ、ゾ、ラ、ニ、實、ロ、ク、多、幸
 ハ、ラ、イ、メ、ヨ、ウ、リ、ヒ、ロ、ク、他、國、サ、ラ、ミ、マ、ウ、ナ、信、ス、ル、
 ハ、ン、シ、サ、ラ、ミ、ラ、ブ、ト、ニ、コ、イ、マ、ト、ナ、イ、カ、ツ、タ、ン、庸、劣、ハ、ン、サ、ラ、ル、ト、ロ
 フ、タ、ミ、ロ、シ、コ、凡、事、に、指、揮、ハ、ラ、ブ、シ、ム、ル、
 私、修、令、年、を、老、を、ぬ、と、カ、キ、く、と、人、を、
 又、ま、く、み、づ、る、見、目、の、ち、ら、分、明、な、り、
 行、む、事、と、や、ま、は、な、り、志、と、が、必、然、
 庶、々、な、り、

池と噴たより水物流と承りしと誠は言存
形も彼を他へ者あつと位とやり度ッ存
ます存とのごとくは流を之れハ形がとて
又音ふ者と拙しと成りていごとく事ハ
形同らち中ら流との形中もとる

人情ヲハラムシゴシ重ハシゴハトイイルン薄ハシガアラ
クイラ、イハマコラハラシゴハニズイ親ハシボクドリ對馬
島口トラカ、ナアモカハマ離別ハルタイニ實ニルフル
リコカサグセロワハトイタツソイル、千ナイメヨエルフル、千十

イメヨンテンテロニガツバンニイルロハマボコンダイ人情ニ重
ハシゴハトイトロタラ薄ハシガアラムノイ

人情と中者のいほいほと存して一過落の
とのごとくはなるなど不れたれと中もすもは
只今親の友達が對馬へ向うとありしす
まは離別し時を定、海を流し離れ
ごとく、五のとるごとく十のとるごとくす
此の志しすも是とれりすす世ハ人情ハ
厚い振、しく却、薄い物とありし

移館ハイルニボルセ停當ハマツスブコニワ其間ノイアロイル
ニルミシイカチヨヲニアロヨラムニダイロ施行ハツブシルキアハ
ヲブシルキモロヲブコニワ大概館ヌルヲンゲニ後ヲイメオンサ
ラムニコソブコ館中イ狹窄^{サジ}ハマウニハトウルロコニモク
ルキリヲブツヲニナイニムルハイゾルハイマアンフロフルリヨ
テレツシユ西邊タムトナヲツキヨツルサイコイヲ擔當
ハシルリマグロアラツスブタニ南邊タムミツテイキブルキツ
ンツク間閣敷カニソツヲニ南牆ルデキムルツキマキブル
チツカイハマツツヲニユラニ形勢ルニ生覺ハラブニマアロ

ヨムノシダイロ許ハマツウブシヤイリトイタルコニニアムリツ
カ+決断ヌイニルスムルトツツワチイタ

移^館官^ヲハ^シス^ル名^ノ最^モ早^キお^シ海^ヲマ^シを^シた^ル中^ニチ
上^リマ^シル^ル海^ノグ^ニシ^テ條^ノ口^ヲ片^ク留^ルヤ^ハ上^リマ^シル^ル道
ハ^海に^必ズ^シマ^シテ^ハ海^に必^ズマ^シル^ルな^リと^考へ^ル所^ナキ
大^正陸^軍館^ヲ移^スル^ニシ^テ後^ニシ^テ後^ニシ^テ人^々モ^多ク^考へ^ル所^ナキ
筒^井ノ^一ヤ^ニヤ^ダシ^テ海^ノ邊^ニシ^テも^ハ海^に必^ズマ^シル^ル所^ナキ
と^考へ^ル所^ナキ内^ノ海^に必^ズマ^シル^ル所^ナキ西^ノ海^に必^ズマ^シル^ル所^ナキ
後^ニシ^テ上^リマ^シル^ル所^ナキ門^ノ海^に必^ズマ^シル^ル所^ナキ

家と南表に石垣を建てて家敷が
多ふに南表に石垣をかたてて建
物を成すを能くし、子孫に伝へる事
上より、此の世道に於て、
公作米イロエラバン催促ハライラフニ凶年ニ慘酷マ
各官子らエドキモツハル分アニラフ百姓ウイユイ設減
リマハト即今メアソルモイニ京外エ還上ハルコト十分
一トモツツコワリン百姓ルゾロキ、高ハトロヒマ京外エ各官

子ら以テ前ノイナニツトシ穀石ルホツボシニハモキマ命ニ并
ライニニ實ロラルカツタニ凶年ニツトイイツソツリツカ
代官ナイト萬分切迫ハルコトシテ、酌量モツハル
カニシイランタイエニツロ變通イシヤ兩國誠信ニシドル
保全ハルカシツブライ

公作米備と度、催促はまじし、其考年、
知、凶年、若官、公考、米、と、ぬ、計、と、り
所、今、かつ、つ、る、中、千、り、に、京、外、還、上、に、法、は、ま

かゝり十分の一と交り取らぬるへらるる百姓と
其の事なく事しぬる事却る事即ち各官と
以ておのり居る事と米と食と宛分る事と
命計生くる事と其の宛分る事と
年が何れもこの宛分る事と此代官中ありと十
分は難事なり其の宛分る事と何れも推察して
其の宛分る事と其の宛分る事と其の宛分る事と
直汲する事と其の宛分る事と其の宛分る事と
其の宛分る事と

前ノイ舊館子イツツラルサイニ公作米トリヨツラ
キルバイトラサキシヲトリヨラブタニ後館ハニ後ライニ
千ハニサクルシラニウリ生覚ハラブキニ釜山シマカツカ
ヲニ旧館サイトトラサクルシラニニ新館ノニモラニドイタヨ
カツゾイキナナイルツルニエケウスブタニストナヨシカニワ前
ヌイイツトニバイロルサハニサキヲブシホコニウノナハニサハルニ
ラニニ或バラニサヲナブカナヒカラカナハイメヨシニサハルニ
ノシニヒツトニモツルコ代官ケイトリヨホナイニゴシハツ
ヒトエモヨシ偶然所任ハニサラマイイ問望ハラニイラシ

道理に、参高ハラブヤ以後、^{ブル}スラニイルトハハニハ
ノイトリヨツシカイハラブミル千萬^ハララムノイタ
ハ茶古館^ニ居ヤ^ナ耐ハ^シ化米^ト入ヤ^リヤ^リ以^テ船^式
波^ニ積入ヤ^リ不^レ後^ニ館^ニは^シ只^ニ一艘^ニ積ヤ^リ故^ル
馬ヤ^リハ^シ倉山^ト海^ト近^シ古館^ニそ^レハ^シ二艘^ニ積
キ^ルコ^トより新館^ニを^テお^シりヤ^リ所^ニ回^ル五
六艘^トお^シヤ^リな^ルコ^トは^シ揚^ルマ^ルお
子^ハお^シ至^ルお^シお^シく^テを^テ艘^ニ減^ル一^艘
積ヤ^リ所^ニ着^ル風^ガ悪^クな^ルコ^トは^シ後^ニい^ハす

中^ノれ^ハを^テ艘^ニお^シハ^シ多^ク積^ル所^ニハ^シ度^ニお^シて
法^代者^方入^ルコ^トは^シ事^ガ急^ニに^テ度^ニお^シ
マ^ルコ^トは^シ極^ク保^ルと^テ勢^ヲヤ^リ者^ハ誰^カも^ハお
所^ニお^シヤ^リ極^ク保^ルと^テ度^ニお^シて
中^ノれ^ハを^テ艘^ニお^シハ^シ多^ク積^ル所^ニハ^シ度^ニお^シ
奇^別ハ^シブ^シニ^ルソ^ニセ^トソ^ニブ^コニ^ワ公^作米^カニ^ヒイ^シ
ガ^キカ^シン^バイ^カハ^シガ^クミ^ハマ^ト連^ハマ^トリ^カシ^ン足^ヒス^ルコ^シヨ^ハ
イ^カエ^ラガ^キラ^ト風^勢カ^サラ^ナブ^カナ^ヒカ^ラカ^ナハ^メヨ^シト
リ^キヲ^リヨ^ブソ^ヲニ^ハイ^タ多^クゾ^クイ^ハシ^キア^ニハ^ラブ^コニ^ワ

是誠信イニクリアラブソ

唯今中御子と承きしと西土誠信は是誠信
なすすも是誠信初ふあむと境と中と知なきは
志すぬ振しと政方と云ふいと必きしとふ品と
事ニお海と中御子と云ふしと境と中と知なきは
たそれいふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
玉の御子と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
あひまゝと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

たはなはと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
為す事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
朝廷と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
よく料と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
誠信と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

イホニコニナウラニイリタラニイリアニラ開白イナヒニソラトイ
世子ヲブソウ養子ト云ふ事依前例信使ル請テ州
江戸ロシヤ島中外奇別イワソソラニイ太守ナル
ホナイニニ火スブコニワ以前信使ヲイト一路各官子イ

朝鮮^ビニナランオ事ルハ、ララム^ノニイソ^ニソラトイ前
ブツタ其^中或不足^ハニイリイツスブトシゴシラマイアロイノ
イタ醫^負トブテイ命^藥ルガルハノニクワツムガルツノニ
クワトウルホナイシヨ^寫字官ト正書^ガルスノニクワ草書
ガルスノニクワトラルフルツケシヨ^畫負ト真^練サルクリ
ノニクワ水墨^クリムガルハノニクワホナイシヨ^馬上オトナシ
試^オハルサイカツバスイ^道理トラブスブコヲニカガク^熟
ニロトラルフルツケシヨ^キマシヤホナイシヨ^イツケツトイヲニガツ
備ル、カルハイマツケツシマ江戸^ヲイトラカト朝鮮^生光ト

ホコ彼此^ヲイキツトナカイハルハララブコニリヨツラ
フツスブトナカ

と度^後に^て各^々の^事を^別々の^心算^りを^ぬく^事が
は年^は長^くし^ては^亦子^が存^りマセ^る
法^考の^子と^は好^まし^きふ^らは^例と^通信^はと
招^キテ^は招^キテ^は對^州の^心算^りが^ある^事に
右^守と^和と^は此^の心^算の^心算^りに
使^テ各^官と^朝鮮^の信^と知^とを^通信^の心^算り
は^左の^心算^りと^は内^或と^は心^算り

我^レの^レ後^レの^レ形^レは^レ中^レと^レま^レる^レ為^レ原^レに^レ配^レ劑^レと
 う^レの^レ味^レを^レの^レ汁^レと^レう^レた^レく^レま^レる^レは^レあ^レい^レの
 か^レい^レす^レ

写^レ字^レの^レ字^レと^レ能^レく^レ書^レと^レる^レま^レよ^レと^レ能^レく^レ書^レま^レら^レ
 と^レと^レ武^レ人^レの^レ定^レめ^レ書^レ師^レに^レ極^レ極^レを^レと^レう^レあ^レち^レ
 又^レ多^レ量^レと^レう^レあ^レち^レ人^レと^レい^レは^レ曲^レ馬^レ宗^レ者^レと^レ一^レ人^レと^レい^レ
 ぬ^レま^レと^レい^レく^レ曲^レ馬^レの^レ所^レ會^レ極^レ極^レを^レと^レう^レあ^レち^レは
 ま^レと^レぬ^レ泥^レ玉^レ極^レ極^レ者^レを^レば^レあ^レ人^レと^レ名^レ復^レせ^レぬ
 總^レる^レは^レ役^レ人^レと^レい^レは^レ味^レぬ^レは^レ江^レ々^レ者^レの^レあ^レい^レく^レと^レ能^レ

鮮^レを^レい^レ兄^レ目^レと^レい^レは^レ大^レ少^レと^レい^レ兄^レ目^レと^レい^レは^レま^レる
 海^レと^レ能^レき^レて^レ兼^レる^レ中^レ入^レも^レあ^レる^レは^レ後^レり^レす^レ
 ハ^レブ^レシ^レニ^レル^レス^レト^レセ^レト^レラ^レツ^レス^レム^レノ^レイ^レタ^レウ^レリ^レト^レ四^レ五^レ年^レ前^レガ
 夕^レ信^レ使^レに^レ請^レハ^レリ^レハ^レニ^レ所^レ聞^レス^レト^レラ^レツ^レス^レブ^レタ^レニ^レイ^レゾ^レイ^レマ
 関^レ白^レケ^レヲ^レ承^レ襲^レハ^レル^レ世^レ子^レに^レ定^レハ^レレ^レ傳^レ位^レロ^レル^レハ^レニ^レタ^レハ^レ
 ニ^レ日^レ本^レ朝^レ鮮^レノ^レイ^レ猶^レ同^レハ^レニ^レヲ^レヨ^レシ^レニ^レイ^レイ^レラ^レニ^レキ^レリ^レト
 ラ^レク^レシ^レ慶^レ事^レマ^レデ^レフ^レソ^レヲ^レニ^レナ^レラ^レト^レ信^レ使^レ請^レハ^レル^レツ^レル^レア^レラ^レゴ
 使^レ臣^レハ^レル^レサ^レラ^レム^レク^レノ^レ谷^レ頂^レ差^レ備^レハ^レレ^レニ^レイ^レク^レヲ^レニ^レリ^レ極^レ擇^レ
 ハ^レリ^レマ^レグ^レロ^レハ^レマ^レツ^レス^レブ^レユ^レニ^レワ^レス^レト^レイ^レリ^レニ^レル^レシ^レニ^レク^レル^レガ^レル^レハ^レニ^レサ^レラ^レム

クワクルミ逸筆クワクリト墨畫彩畫極ハン善手
ルハカレイカイハラブゴ馬上オハニサラムトハナヒカツスブタ
カ或病イナトルカヨシクキヨガハル諸國サラミモタ落莫
方何ハルコソリハナフニスト定ハマボナイカイヤラブコ
風流ハソシ樂ユドルト音律ル貫通ハソシ外音ル抄
擇マトリヨホナイツマゴロ啓聞ス極畫ヒハラレニワ
前例外付スニ人負數ルトハマツツラニナラヒト
ロミツル、丁寧ヒモロラブコニワトラカノニサラムル
ノムロシマカツソラルソイ江戸ウイトラカト太守ウツキヒニ

ヲルコシニアモテロハラワトニルニシ辞縁スルイトロク啓聞
スルハラルコシニ念慮ニコシコ回下ラキルキドリラフシユシヤ
此所中ノまじりと得てあやうていなる行々四十年前
ら能ソ方様流流のまじりと定まりて此位と
譲らまじうことヤチナリ口知別解も同國に
弟十の味りまをぬおケ極る結構を受事ハらぶ
らぬ能く然延ニ信使は極あまらぬと
ニ使らり申す人として後人といふと遠い所
に探すこれたみケ極るにやうなる右文を

上人と云詔に清きまゝ一人も異信新也信
と玉極と云と云ふは内なる極清也
曲馬一人一人糸りまゝて是不同病字也
只れは久物清き後由一人の証具より
道今ま一人と定むるは善業と清き事
人も善徳と貫通する人と選くは
後一まゝに詔中と云ふは清一まゝに
先例も善徳と人教と増一まゝに
極く清きまゝに清一まゝに

た多きまゝに清一他人のまゝに
取つて清きまゝに清一他人のまゝに
まゝに清きまゝに清一他人のまゝに
清中と云ふは清一他人のまゝに
まゝに清きまゝに清一他人のまゝに

十ノシムガ性情イタル自少ロカラ台イ阿諛ハマ容
納ハキル、求ア軒ニホコ一生深山窮谷多溪澗流
水處外隱居立け風塵ノイト千ニルコ去來ル、
任意口自得ハマツタカツクリヨサイクカキロニ意外工ヘ

スルハヤシニ為人臣子トマイナラ穀石クワイナラヌダグヒイ
ラ進退ルモラムロモツハヤ就仕ルハトイモラムニ山川舊
遊處イニミラ

私心人ニ性情ク速ハキテカキコリ人ニ居
けいひくせらる事とりとゆはず一生浮山
窮若ト浪瀾流水ト変ニ居居して世ら
交うと去るといへば自得して一生は浮水
となまふ事なるとぬ官職として人ニ臣下
とらりて北國之食物ニ北國ノ土地ニ進退

と心
山川回遊して交りてはた

イブンヅラムロ任官スロワケシヤ無事に瓜期ル、サイラシ
コ時方交代ル、キトルロケニシラニキラソイロシハトイ
ホルセ期年ニトマラライチアニハイシマストナカシカイトマシ
ニカシノニンスイセヲ、ホシニキツブラブユニワウリ情意
ノニヒロク他國サラミナ積年情熟ハラミイ猶同一
國イラ晝夜相徒ハラガタカイリ卒然ヒストナカシカ
イハシニソブゾブキル、ナイノ、メアアロイチモツ

ハツルソイコノシコラハラブコニ其中国ウイストハシ致
謝ハツルイリイツスノイタ上年シ大段ハシイリエ
ラカチヲトイ無事に後事ハシイコシチチツニル
チマクシメヨシ盤根錯節ルニシチモツハ有シ利器
分辨チモツハンダハニサイゾケシニツルカヒアラルソイ
ニエイニニリニルラシトイ轉禍為福イラハニエシ到任後
ライクツキコイロライチナイシチラヨラニイルチヨグノ
イタアモツザケシニイゾイシ必然公私ウイチヨフニイ
ルハシルドツハニイランキツブウシイリラブソライト

と度初を優おらるゝ必は事交代の日と克く
あつた交代の時おまの早役年まゝは
きのつとけのつとけのつとけのつとけのつとけ
おまのつとけのつとけのつとけのつとけのつとけ
は後足長南午ふくの早おおとつとけのつとけ
すつとけのつとけのつとけのつとけのつとけのつとけ
今他おまのつとけのつとけのつとけのつとけのつとけ
か熱くまゝて回國人つとけのつとけのつとけのつとけ
おまのつとけのつとけのつとけのつとけのつとけのつとけ

四洲多いことなどよこ中をたせぬるもい
た振く心せしは其の中よ又は禮と
中々の事か心せり中々の事年々いふ後
事か振り候して心せり中々の事
は海ふさしふより是と誠や中々の事
うと盤根根の節ふ違ふれど以利等と
中々の事なりと中々の事は是をいふ
は明と終なきして心せり中々の事
中々の事振福と終して福と中々の事

中まうして此度以後は心せり中
後以て話ふは中々の事
心せり中々の事
心せり中々の事
心せり中々の事
心せり中々の事
心せり中々の事
心せり中々の事
心せり中々の事
心せり中々の事
心せり中々の事

兩國間ノイ往來ハニサラミヒロク所任ヲブタニラトモニガ
ナライルヒムスコ私事トアツトモツハルコトナリ次々
ハマニアニラルツラニガヨソイヲワテムニサラムドリハニマグルホ
ヲニラロン待接ルガツゾルハニ行實ルハイハキルラニ大

クノイエ國家縁故トニシテゴ舊大守退休ハシエ
新大守セシニテライチアマラフソラニユスト新
大守ヨブガルハシノラハラニ自然ヒトテイマイゾイマ
請ハラニラテイゴビノシカイハマツシムルハライダ
私ニ古守ノ命ト蒙ル一ニテ後身
は度ハ教ク年條ノ新ハ書留ノ中ニ階
ノウチリヤケル故おノヤ述キニハシケル
なまをニシテカク向ノ新ハ信クヨリニ
ニハシケルヨリニ大守ヤケルヤケル

壬戌年ノ小位候ニシテ後身
二十年ニ如キケル故疾ハシテ招キケル
ノ命ニシテケルニ玉カクニケルニシテ
キ大取様志シテ居ル故新大取様ニ
シテ又若取様ノ命ニシテケルニシテ
口初ケルハシテ大取様ノ命ニシテケル
ケルニシテケルニシテケルニシテケル
ケルニシテケルニシテケルニシテケル
ケルニシテケルニシテケルニシテケル
ケルニシテケルニシテケルニシテケル
ケルニシテケルニシテケルニシテケル

誠ニトキナクも後と心程中ナリ

ウリノニ他國サラミロシヤモルリナワムツソノイ東萊令監
威名ウルトツツブコヲンヅイカヨニニナホタル茶禮ナルニ
ハラコウツスブタニツヅムマクナル身上イ病患ニケラブレ
ニイ茶禮エ參詣チアハシユ金山令監ニシホムガラミイ
ソブクハラワヲルナルカチニツヅブチモツハマツスブタニ
モシガエ進上宴ナル定ハマツスブコニワクナルニツヅムヒラ
キエモツマトワツスブタニヲルニ日氣快情ホユ東萊
令監至モルリ行次ハラブレニツヅラムルガヨチ欸曲ニ接待

ハシニキツフラギアニシタラブソワハラムノイタスト 朝鮮風

流ル、イリワツソランサイトツスブコチマハラニ常時ニイソ

ハシ風流ツクイベルロカチノ、チヨフニ曲調ルルレシヨ女妓トルト

キニウフイヒスニゴトヲブシホコ 別口妙ニ歌舞ルニシキヨ遠人

スル慰勞ハシヨウリトクキヨグハルハラムノイ 妓生

私を他國ノ者ニ遠く送ルルハ在る由テ東萊

威名と承キテ何比掛は月ヲセリト有

茶禮ニシテ計敷ク居ルニ不キルニ

病氣ニシテ茶禮ニシテ不キルニ金山浦

計は其人を至きく歩多存す
くしひを志す能く心算りましくし
射進宴席くつと極りましくし其
日折る面が降成ませいく心算りま
事今日の大氣能東葉十を方の心算り
ましく始る柳の目ましくし丁字りは池
ましく成るわさといと十央一し
ましく相又射解しる葉此地の葉ま
くし分取ふなましくし常しき葉ま

かみふまの如きそのましくし
ましく修成したるましく物と志を以て
裁く物と除きくみる如き葉と心
付ましくしを人となぐさみんましくし
形と見方の波ましくしとみましく

ヲノルゴロホヨラムノニルニタネリアニラルラ西館修理
ハライル前令監ケヲブニルサクソツロサラツスブ
タニニシ修理ルハニニニルニ終始決断ハマツチ
アニハニタカカラカヲブニニサナイト所任ロツケニニ十

イソロブチアニハマトフレニアニハラレニワブトイアモテロナ
スイヨツチカイヤツラブニユシヤ

今日然と云月小掛りまきふい別る候と
心から以西館修理候は候と是東業を以
おしや入ましこも天候理とあるまじう
たつて候に掛りもなくは交代はあま
らばら申えし候に候くはたしんやとぬ
殊におあまきし候は候は候は候は候は
あしは候掛りまきふい別る候と

ニルシノニル、ツセトラツスマノイダ西館修理ハラルイルニコイ
シマアニニロラブシマトウリ主人道理エラレニアニハラレキ
マノシアラブシタシエイ近年ニ連ハマ凶年ニ惨酷ハ
ラブキロウリナラ百姓ルナルラナラブキル、サヒミノグノク
キモツギハ百姓イイラグハマルモツクソラニ修理ハラブキ
ル、ヒミミツガカキモツハマ至今モツハマツラヲニコラニイリ
ヲ、イイシリツカコラハラブゴニワツトン所任ウイユイ
ニルラアモテロナ長羅前ノイキワナコツチカイハラレ
社何ヤナキも候候と承りて候は候西館修理

し民をそえんふに力をもてぬと申すして是
地方の役人。跡に海を渡るに四序り
を秘たし居るに振を年々玉極く凶
く四序り申すも六あむ百姓といひ申す
るが力お及ひまじくは死たがあらしこち
政餘死海すまむ。証は修理とお掛まを後が
力お及ひまじく未收まひくはたのけ
な後が四序り申すも。能まじくも當後人
申入きして何れも長る前より居ぬと申

形多しり候。及まするくつらふ

裁判ヶシマヨツゾラムシラニモヲニキルホイ行次ハラダ
シマ遠人ヌル待接ネシノラコイロライワケヲブレンド
イナゾツサボヨラブキヲリヨブスブコニロモムイ所任ウル
ツツタケツスブキエニキモツハマアロヨラニ大概變通ハマ
ツヲブレユシマタラニイリアニラ島中イビロク他國イ
ラニロヲナ其實生涯に朝鮮ニシツスブキロ公作米
ル。定數ダイロ自前ブツタ未收をトリヨツラブレタ
ニ近來ノニ連き計凶年ニトエタハラブシヤ未收を

未収多ブ千叶州 專旨アニツシニホシテイ 田土ラダ
スシチヨアニシセムイエラ 人民スルコノリヨムヲスル生涯
言ハルカシツブヲニツカ 當初ライ約條イ丁寧ハラフキツ
對馬島所産ニラフソナルチラト 江南ウイ貿易トハラフ
コ各處ウイ轉換マ進上雜物ル、年中ウイユル
ハニバイラフソラニイニ 約條誠信スルチウクイニ道理アニ
イツカヒロクム年ニマウナナライケウブコ物カイニソラニ
チヨコニセムル 救千モツハニルイリラフソナルコニニ 辭縁スル
ナラハイアロヨラグシヤアモテロナ 約條ライヲクニナナア

ニツカイスイトリヨツシル千萬ララフノイタ

裁判ハ此後内とらへ今日も遠路は誠意を
人ニ沈走し為苦勞と不顧のあふまへとて女子
あはれと掛は月まをうとアもへア 然るのうりま
いふは自らに後や承居まするより不届を
中ら申すふ記に大概ある通なりとて下すまとい
別段のうりまをぬ別掛が假令他おとア
すしては実を生涯と解釈しつゝ早ら故
公作等と定數に通あよりを未収と入る

ちしよに近年を續るる幸なりと云ひて未
收と未收とを認めておるは下も也なり
より田地のつるぬかの流る物一人民の
幸ひと何と生涯と後よのつる。最物
し約條の丁寧のつるをすして對物と土產
が四角らぬとすしてと唐と認めて諸國
は形すして献上し難物が年中つるに及
まぬ是の約條誠信とすりまらるる理ぶ
るは是れとまとの。假令出の子ぶと大玉

故物力が多あるが島と難故事ハ
ははりまらるるのふらと認とつる。とつる
く何と何と約條のつる邊すもぬ。早に入ら
下まらるとおる。おのり。

外層外生涯にけり各^各サムゲニニカツタニニ漁父鮑
作漢ニトマスインキルバタイ出入ノニトイウ高賣と
ヤ萬里他國イ往來ハニトイウ宰相イトマナライ
禄モクコ平安ヒサノニトイニイコシメア生涯ラ
人を生涯と申者ハ若生賢のつる。

海父や海士小や五十名一海と出入
波よりたむ商人るやふかつる他お徳事
得るにあり宰相ふつはく福とく人平
あ、きる人しはまりすたるよりそは皆生
涯くはなる

サラミラルクリカイザホコ性稟イ温和ハマサラムイユイ
親ハニトウツユラルクリボキヌル性稟外生オワサラムイ
コイムイノンバイトエノニトイシニイノンタラシイリアニラ天性
イ受胎ハルガイ各々善悪ハ區別ハマ胎生ハニタシ

ヨ亦是ゾイ所望エニワカク世上ウイナオサラムニ
タキリコラヨツビ子ケノニサラミトエカシ父母ウイ恩徳
イトラクヲクナルカニツブラニガ

人ニ親也と奇聲よ生候温和よりく
人ニ親すするとも形色と具ふふしと生候
西友んニキ内なる振おとらるそいあ
る候とてしむらひに性生はくお各各
あともく生候とぬくはる念はこもあ
し仕合ぶをさうしは同振よ世よ生候し

人にお火らしおれをらるる故に本年よりをらる
父母の恩愛の情どあましく思はるる

ハラムイのツキニ小船ニコタゴ前洋ウイナタカコキナナグ
メヨシ五五五五ロミナルソイ

風かながこもつた程小船の宗くあま

魚や丸物ならむよひあまをらるる

イ件トキニ陸路ヨルニヨリ水陸を水路ヨル

ヲミイ船上ウイマニロヨイアト野ウシアニライ

此地に海りまふるる陸路と宗れくるも

うを陰ひお路と宗りまふるる^中とんが

安き路ぬ

暫間兵五兵ニイル即時アヲニト敏捷ニサヲニ
ヲフトソイ

ちんや見ヤソと早速知らす

せあしていさといんぶは

上船宴ノニホルハラルニスル接慰官ケラマ縁故イソツ

ソの自然に遅滞ハマツソムソイ

お宴席の敏波答ぐの片をうたは接慰

官に指支がのたつくりおれ延川海り

イハムニメルボルクニ世に當りモワタルキヨグハチヨラルカニゾ
今日今夜も月がよふはにけり泣こといふる
友達中お合はく月見はたらふ西暦
ナリトソサシヲキヲコトヤブニスハチニイムタイ
トキロイイナヤ羅をトナヤシイシ
和名は御細はまきと一十一家実や居
まきの事しりしぬ
ラノニアガインシヒキヨ氣候カ別ロサヲナラニイラニサイニ
ナタシゲキニルラマヲルソイ

今日名霧かけく氣候のさつりし
心は清淨の時分をさくあふりぬ
か終はに終
スルクニサヲミ冬節ウイトイムン門の窓クルムワコブ
ルソコキナイラムノイ
老人をみるは南をれば門タチにては
そふくさうしき子
公ニサイトロクニルツムハヤカツツニサツサムルザシニアムレ
合くメハンドルサヲナラン調理ヲフトソイ

あふたれはとせうかたきまをなす後と
はしやうりやなれしひやうりよりあるの
かを生くはな

アムレハマトミイサラミハニリラルタトイイソイサラミトリ
ラチニサラミハニミカムスサラナラニイリイソソラルユ

とありては故人ちかのきこ事よりいひなれ
た今も人ごもいひ今も事か
ゆゑ思ひ事かひなれ

サルスニシルミシガツスルカルハイチアツタハトイ能筆は

トコナブツスルカルハイヨスコムイ

とよよ書人の筆は推しぬと申す
はた終きは尚筆は吟味して書中をなす

朝鮮の文翰又口宗尚ホコ雑技ロルハイハニイリラガ

ソラキ

チグゲイ 徳戒

朝鮮の文字をいひてはた之枝
藝は習ふ事なればな

ニユイキルユブサリモグクシアハイカ行文の風月ルサルシガ
ハニクタイトロク 聰明キスイブソラツカ

昔七氣ある人が泣きとよ海にたれり
の病る其物を聴ゆれば其の容易なるなり
ヨソイニライ外感カムウルツツク頭痛ハ有失音失音ハニ
タフクハライ

此らるる風字にうつる痛し後一替

益かたまりて詭多に成り

秋節ルウイトマニ千痰ト盛ト咳嗽ト甚ハニアト
失振ハニタニラルソイ

秋にそのふ入すしを疾疾起り也さしお

中とふれふぞあして一考生と夏ぬり中とぬ
ぬるぬらふ

常ニウイ調振ル登ハ吐吐尋風寒暑濕ウル
ニサト病ナキアハライ

常ニ考生よりふぬれべきを風字に暑
湿小暑とくし病の起すをぬ

ウリカツタニサラムニ我國ニルソムルサガルモツハコトニハルニ
他國ニルソムルライガルハヲリウイツカ

秋にぬき去る物ぬり時々能申ゆすぬれ

るに他をく辞とゆへに改修申はすもあか
あつる對馬島ソイエバタイに隔ハマ任意口往來
千尺云とワラライ音信スルツキニタブノハライ
家えと對馬とあつる海と隔まてり也
よなるこまを絶てり音信と絶きて氣毒なる
貴國ウシ文翰スロ崇尚ハヲニ必然キヨホシ冊子書法
イニルヨシニ豚兒ル為ハマヲトワラグシヨバララグノイ
も亦文字と云ふれし事必可書及書籍
書法杯の成るやなまふ能く法求

シハ此下す所と法執ヤサケル

我國サテミントルのタカム行文クワ風月ルハニサラニ
のツブコニ文辭イ荒拙ハマノムアツブイテカホルコシ
ヨヲニ

亦あつる人々軍詩文と云ふ人の出たれ凡文
筆の拙く人々前におもふ所拙よる心成らぬ
アツ釜山ニ傳令ヲトイ日本ゾイトウサキ右道ヲイ
漂風バンダハニ家書十ホニルカハヲブノイ
史刻釜山浦に傳令の条ありし下日

新の漂流政を中条りよしたる許し
書状とし見こしやれまじうと存まじ

前後ライホイヲニガキヲゴソゴニワ一面如舊ラハライ
フランソ親ガカイハソムソイ

終に掛日月まじと海にたれと一画回
ヤヤヤヤヤヤ此はゆき迷に親す

酒向知己飲ヨ詩向會人吟ララニ凡千雜技ラニ
コレ臨時ハマルバカハソムソイ

酒名知也向く飲詩會人向く吟す

おろくなくしやふを叶ふ臨くまら傷の心なる

ラゾイ風勢不順ハラワイカ館祈ライハ口ト千モツト

マツタニラノル無事ヒ館中カチラニタハギハラナムン

バイトガキモトラヲニ偶然念慮ハニラルソイダハラニ

暫間ホホイ叶クウルバイドルナラツカイハラルコレニ

目付叶有る件

此のころ風が吹く船の船の館なる

はたかりやといふ今や館なる

此のころ風が吹く船の船の館なる

取為氣をさめくさるふ同く一時ありき
たふば備前とおまうして若ぬれ仕り
かむこまをらぬますらふ

ヲゾイ公作米ニルソル奇別ハツツタニ即今ニ各官ウイ
シヤツチニシラブキエ出庫キリヲリヨライラハシラトイ
イ子ク物件を萬里異國ウイシヤトヲシゴロトイハシ
ハイト遅滞ハニサクイラブ黒角^{カク}生銅ルホルセ出給
ヲニテイユイシヤ入送ハシニ公作米ラニイ司持難ハシ
イラニヲルチアニシイリス合ノニラカ各官ウイ別様申飭

ハシコヲライヤアヤ數千石開庫をハカイハラブツ
所の上作第ニ事と中をまいたれど當時各官ハ
納めたのびはたりのせぬれ花がぬあふふの
はたまたまねた地方にありふる里長國々あり物
ふはたせし一年に遅滞ありたるはははら
水牛角納ともなうた而もそえふのり入送
はたふてふと使第ハケれは難ぬあふふの
きこぬ事ハのむをまうか若官にけく
はたすしてをらぬに教を信義かまぬあふふ

ハシニルソムニナルソブユニワナイ去着ウイ邑内ラルラカワ各
官外催促移文ハ言イ使道所ヨツツワツソブメ
ニ各官ウイシヤアキクサイコトクモツハラルグニアニラ
ヨクイ風波カサヲナワホルセシテゴツト廻船ヲ
モツハシタハヨニナリテキナラエカシ即時三ツヨルコレニ
エツアツブツ

此頃より各官のなまじりたる所を
若官に催促書ニ書キ申付申上
此ハ若官ニ書キ申付申上

らに此名風波が急激に起つて
またたのし回船が加まぬと
よりのならむに申上り申上り
あまきい
ホルセラハトクツナラニイル順ハシダ
コレニ色吏トルニイ申飭ハシコ
ハマツヲブソウリコイシマ催促
キニ所イリ巻ソラニ曳船トスイ
トツヤ風上りた風潮がなると

海をよぶに五の旗掛たにはるはりてありとあり
入る物にぬすまるとい物の方と改催使
為に持明すねよりやれにや入する能い船
とありおしとるれにぬすまるとい

ハニニルソムニソセトラツツヲニ色使ドルユイシケ高五日糧饌
ヌルスイテレカイハヲリイダハリラトモムルカヨニイ子ク弊大
トニソツヲミイトニドクイハヲルユスニアニツトイアライサラニ
ドルニクラシ妙理ル、モロヲニタブノハヲブトイハ申船スニ
スイナイカイハヲアサイ

是は伊豆なるふ番御承りて記にあり掛たに申
付りてあり改とあり入る物にぬすまるとい
一のふと通るがはたしては方の費も多
ハニニルソムニソセトラツツヲニ色使ドルユイシケ高五日糧饌
ヌルスイテレカイハヲリイダハリラトモムルカヨニイ子ク弊大
トニソツヲミイトニドクイハヲルユスニアニツトイアライサラニ
ドルニクラシ妙理ル、モロヲニタブノハヲブトイハ申船スニ
スイナイカイハヲアサイ

公作米開庫ニルソムル去番フツタエラハンソルソラトイ
至今テレツシノニイリラフツグキエウリトルサレ馬ハンダハマ
イバンビセウイ。ニイ致責ルニラフゴイラニ問忙ハン

イリヲブツヲニ近日間ソイ為先三四十石出庫口
ルハマツシカシ四五日間ウイ飛船カシンデーイ奇
別ハリマハラニヒムソツブフソ

上作米菰か事と足引の毎日入申すれ
ま今入送ふまぬ取神たは海物がある
此度しは、海外にふるまるとは、
氣毒な事とふたるとも、
俵乾か事と足引の毎日入申すれ
いふ中申す及るまぬ取神たは海物がある

ソセ子トカツソムイクラハヲ十使道ケシマヲヲチアミカラ
カシニイイタル梅間イカシントイレニワヲ前ウイノ
リヨラルカシツブヲブコニワアモツカナヒルスワ。イ使道
等内エ開庫ハシカイヨツゾラレニニ成不成ウニ
モロラルイ

ゆいぬきれたら就楽業十通に交代い
はふまの故南月未の成りや
そふまの故南月未の成りや
粒とかきして茶茶業の代に為る

橋、申上りまをぶが、おふぬいなるをた

ナニヲダイ問情カラツクルボニハツツクイダウトロカメヨ
トイキエニツキモツハヤ漁船ヌロタコワルロカタカ狂風ルニ
ニナユライ外洋グイブルリヨカタカツクチアニルヌイラ
バラムトクツキムルテルトユイヨハマケヨワヤ問情
ニモツサツソブユニワイラニクシリヲテイイソラリ以カ
新名町の問情お糸をさすく死をわげませ
口形の際よを糸をさすく延川海をさす
よとさすぬ色海船糸をさす延川と糸

才はよに狂風に逢すく 阪の如海
流すくさすく死をぬか分ていなる
風をぬかすして波を静く成るす
漸くし問情の海をさすく北極星役
目が何の尾くさすくさすか

下人トイサヲナワナイ向ツルニツキノニカシブライ

以下概

